

さいし
祭祀関連遺物



ぼくしょどき
墨書土器：「仁」「泉」「福」「東」「二」



りょくゆうとうき
緑釉陶器：愛知県(猿投産)・京都府(洛北産)



いぐし
木製祭祀具：斎串



うまがた みながた ようぶつ ひきりうす
木製祭祀具：馬形・舟形・陽物・火切臼

あか んだ いち い せき
赤田 I 遺跡

そう が な ぼく しょ ど き
草 仮 名 墨 書 土 器



実大写真



何をかいた
んだらう。

富山県射水市教育委員会

1. 赤田 I 遺跡発掘調査の概要

所在地：射水市一条地内

調査原因：赤田土地区画整理事業に伴う発掘調査

調査面積：7,464 m²

調査年：平成14年～平成19年

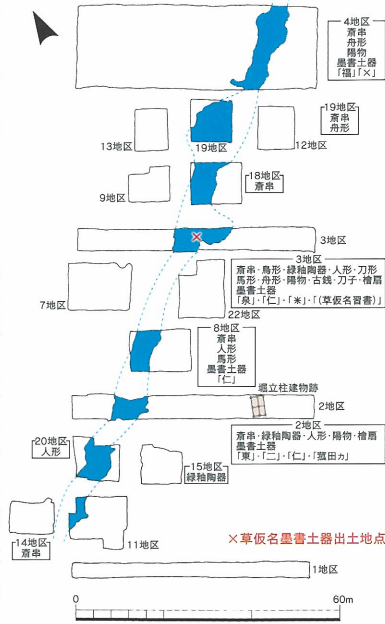
検出遺構：古墳時代(溝・土坑)

奈良～平安時代(祭祀溝・土坑・掘立柱建物跡)

出土遺物：弥生時代(弥生土器) 古墳時代(古墳土師器)

奈良～平安時代(須恵器・土師器・緑釉陶器
墨書土器・黒色土器・木製品〈農具・紡織具
・祭祀具・容器・服飾具〉)

調査成果：奈良時代後半から平安時代前期にかけての祭祀(祓え)の儀式を行った溝を約130m検出しました。木製祭祀具(斎申・人形・馬形等)や草仮名の習書のある土師器が出土し、律令制度のもとでの祭祀儀礼の様相が具体的に判明しました。律令国家祭祀が都城から地方に至るまで確実に伝播していたものと考えられます。



遺跡全景(北から)



草仮名墨書土器出土の祭祀溝(3地区:南から)



発掘作業状況(西から)



土師器壙出土状況(西から)

2. 草仮名墨書土器の概要

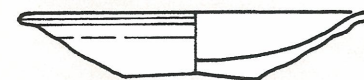
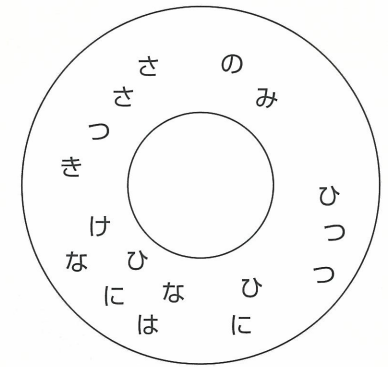
出土年：平成14年4月

出土場所：現在の一条団地内の市道下

出土状況：本発掘調査3地区 1号溝(幅5.5m～12.8m 最深1.5m)の上層から60cm

遺物年代：平安時代前期(9世紀後半)

遺物概要：草仮名とは、万葉仮名から平仮名へ移行する短期間に使われた文字で、直径13.1cm、高さ2.4cmの土師器の外面に17文字が墨書きされています。国内で見つかった草仮名の墨書土器では最古級と見られます。解読に当たった鈴木景二富山大学教授によると「ささつき」は酒杯、「なには」は古代の手習い歌「難波津歌」の書きだしで、「ひつつ」「のみ」などは続け字(連綿体)になっており、意味は不明ですが、和歌に使う助詞などを練習したのではないかとみえています。同遺跡からは供宴に使われたとみられる緑釉陶器も出土していることから、出土した溝が「曲水の宴」が行われた場であり、貴族や国府の役人らが宴会で歌を詠むときに、練習用に書き留めたとも考えられます。仮名が書かれた土器は、大宰府(福岡県)や平安京(京都府)、大隅国府(鹿児島県)などでも確認されています。



(例) 万葉仮名 → 草仮名 → 平仮名
「佐」 「𦵏」 「さ」

ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
				𦵏	𦵏	𦵏	𦵏		
キ	リ		ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
			𦵏	𦵏	𦵏	𦵏	𦵏	𦵏	
			ル	ユ	ム	フ	ツ	ス	ク
							𦵏		
エ	レ		メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
								𦵏	
ヲ	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ
					𦵏				

仮名字体表

参考文献

『赤田 I 遺跡発掘調査報告』(小杉町教育委員会、2003年)

『射水市内遺跡発掘調査報告 I - 赤田 I 遺跡本発掘調査・串田地区試掘調査 -』(射水市教育委員会、2008年)

『木簡研究』第31号(木簡学会、2009年)